

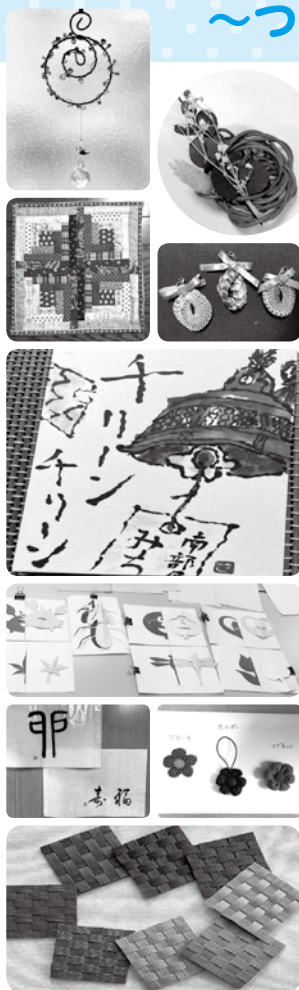


うちのイチ押し!

カムカム
ワークショップ

2022大阪市生涯学習ルームふえすていばる

～つながってるよ いままでも これからも～



大阪市では、市内の小学校の特別教室等を活用して、市民のみさんの文化・学習活動や講座等の開設を通じた学習機会の提供を図る「生涯学習ルーム事業」を実施しています。

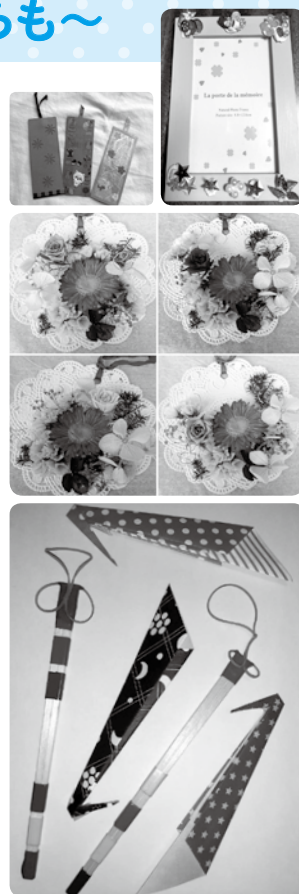
各区の生涯学習ルームによる特色あふれる体験コーナーや、魅力いっぱいの作品の展示、見ているだけで楽しい手づくり市など、盛りだくさんな内容で、子どもから大人の方まで、どなたでも楽しめる内容となっています！この機会にぜひ、生涯学習ルームの世界を満喫してください！！

各区による体験・展示等

●様々な体験コーナー

(ビーズ、ペーパークイリング、絵手紙、ラタンブローチ、尺八、レザークラフト、グラスサンドアート、わりばしはっしやだい、ヨガなど)

●作品展示、手づくり市 ●わんすてっぷ・フォーラム など



体験コーナーの写真(イメージ)
※数に限りがあります。
一部変更になる場合があります。

日時 ▶ 令和4年10月30日(日)

10:00～16:00(10:00開場)

体験コーナー、作品展示等は10:10～

会場 ▶ 大阪市立総合生涯学習センター
(JR東西線「北新地」、JR「大阪」、Osaka Metro「西梅田」「梅田」「東梅田」、阪急・阪神「大阪梅田」)

費用 ▶ 無料(体験コーナー等一部材料費が必要)

主催 ▶ 大阪市生涯学習推進員協議会・大阪市教育委員会

問合せ ▶ 6539-3347(大阪市教育委員会事務局生涯学習担当)



北浜の俵物会所跡

江戸時代には「鎖国」とも呼ばれるように、政策によって海外との行き来を厳しく制限する一方で、長崎などいくつかの窓口を通じて外国の物資や情報を得ていました。その際に輸入品のかわりに持ち出されたものは時代とともに移り変わりました。江戸時代の前半はまず金や銀、次に銅が用いられました。それらが貴重な鉱産資源であることもあって持ち出しが制限されるようになり、江戸時代のなかばから後半に主役となっていったのが海産物でした。その代表が干したフカヒレやアワビ、ナマコです。これは現在も中華料理の重要食材ですが、江戸時代にはすでに中国での需要が高いものでした。

それら3種類は俵に詰められて流通したため、「俵物」(たわらもの あるいは ひょうもつ)と呼ばれました。

それらの海産物を日本国内で集約する拠点として設けられたのが俵物会所でした。延享元(1744)年に長崎に設けられ、ついで大坂や下関に設置されました。大坂でははじめ備後町に、その後北浜1丁目付近へと移動、明治のはじめまで営まれました。中国等への窓口となったのは長崎でしたが、会所が大坂に設けられたのは、さまざまな物資の流通の拠点であったことが背景にあるといえるでしょう。

その会所の跡近く、北浜1丁目交差点の南西角に顕彰碑とパネルが設置されています。あたりには大阪証券取引所などがあって大阪におけるビジネスの中心地のひとつであり続けています。



俵物会所跡の顕彰碑とパネル(中央区北浜2丁目)

(大阪市教育委員会事務局 文化財保護課)



おおさか

歴史
探訪

172

大阪の史跡や歴史資料を毎月連続でご紹介します。